

(報告) 第219回鶴見川舟運復活プロジェクト定例会

日時：令和8年7月18日（土）18時から

場所：新羽地域ケアプラザ4F

経過

6月25日、新羽小学校5年生に米作りの授業をしました（大谷会長、臼井氏、佐藤氏、タウンニュースに紹介されました。下の写真参照）。

6月26日、二度目の代掻きをして、田植えを実施、参加者9名。11時までに撤収という条件下で、お疲れさまでした。（タウンニュースに紹介されました。下の写真参照）

7月9日、一粒植えの苗をプランターから大谷会長宅脇の田んぼに田植えしました。もち米・うるち米各9株。参加者4名。

本日の予定

勉強会 「水辺の安全対策について」（講師：TR ネットの中原様）」

次回は「舟による自然観察会」の安全対策を検討します

- 議題 ① 田の中の草取りについて 8/29を仮に予定しています
② 防鳥ネット張りについて 様子を見て実施します
③ にっばらっぱフェスティバルへの参加申し込みについて
④ その他、連絡事項など 市社協からの表彰について

◎7/22(水)9:00～あぜや周囲の草刈りをします

次回の日程

（第220回）令和8年8月29日（土）18時から

場所：新羽地域ケアプラザ4F

新羽小
5年生

地域と伝統の米作り学ぶ

「鶴見川舟運」と交流

新羽小学校 佐藤恵子 校長の5年生は6月25日、総合的な学習の時間で取り組んでいる「米作り」の一環として、地元「鶴見川舟運復活プロジェクト」に地域に生きる生の声を聞く機会をもち、プロジェクトのメンバー3人を講師に招いた特別授業を行った。

同校5年生は5月下旬から米作りについて調べ始め、同20日に田植えを実施。その後、水の管理や害虫対策などの課題に直面した児童側から「地域の人が教わりたい」との声が上がり、学校運営協議会を通じて同プロジェクトとの交流が実現した。

当日は大谷佐一会長らが舟運の活動を紹介したほか、イネの生態や管理について解説。児童からの質問時間も設けられた。どんな家山子（かし）を作れば効果的かという問いに対し、

講師が家山子（かし）の本来の意図を伝えた。児童らがその必要性を自ら再考する場面もあった。お米が米麹や（わ）細工などに幅広く活用されている歴史を知り、驚きの声を上げる児童も多く、熱心にメモを取る姿が見られた。

児童支援専門・地域コーディネーターを務める鶴見川舟運「地域」の代表者から、地域に直接教わる経験は深い学びになる」と意義を語り、5年担任の河原嶋昌教諭は「地域で安心して学べる環境が有難い。学校でのつながりが地域に広がれば」と期待を寄せた。児童らは今後、収穫したお米を美味しく食べるという目標に向かい、地域の手を借りながら大切に育てていく意向だ。

↑「タウンニュース」7月2日



↑2度目の代掻き

「鶴見川舟運」
台風直前大人が田植え
イベントの中止経て

田植え体験を通じて地域の子供たちに舟運や地域について教える鶴見川舟運復活プロジェクト（大谷佐一会長）は6月25日、新羽小学校の5年生と保護者、地域の人々約30名が参加し、田植えを実施した。イベントは当初、6月6日に予定されていたが、台風の影響で延期となった。当日は大雨が降る中、参加者は熱意を持って田植えを行った。プロジェクトの代表者は、今後も地域と連携し、舟運の復活に取り組んでいくと述べた。

苗の植え付け作業（提供写真）

作業を終えたメンバーら（同）

↑田植え（「タウンニュース」7月9日）